

若者による地域づくり関係団体の取材事業
「公益のふるさと創り鶴岡」インタビュー報告

平成 20 年 3 月 1 9 日

作成 木村玄太

団体名：公益のふるさと創り鶴岡

代表者：風間 眞一

所在地：鶴岡山王町 8-21 阿部久書店内
0235-25-6320

規模：理事 10 名、各プロジェクトボランティア多数

団体設立の趣旨

- ・ミッション
- ・課題認識
- ・会の設立の目的

メンバー

代表理事	風間 眞一	全体統括
常務理事	阿部 等	事務局、だがしや楽校
理事	渡部 正芳	街中アメニティ研究会
理事	佐藤 正一	街中パフォーマンス研究会
理事	巖見 昌孝	災害ボランティアネットワーク
理事	斎藤 留吉	コミュニティ・ガーデン
理事	加藤 徹三	城下町鶴岡旧町名探訪
理事	三浦 新	山王まちづくり
理事	上野 康成	文化財活用
理事	星野 文紘	世界遺産登録推進

取材対応者

氏名：阿部等 役職：常務理事

これまでの主な活動実績

・平成 12 年度 庄内市民活動サロンとして 4 月に鶴岡商工会議所の空スペースを借りて 4 名で開設。当初は家賃も払うことが出来ず、資金も持ち寄り・ボランティアで運営。建設省のモデル事業「歩いて暮らせるまちづくり」調査作業委託を受け、資金繰りが安定する。 事業費 280 万

・平成 13 年度 フリマから思いついた花 HANA 宅配便を始める。コミュニティビジネスモデルとして評価される。また、鶴岡エコマネー研究会が発足、地域通貨「もっけ」が鶴岡で流通する。8 月に法人格を取得し庄内市民活動センターと改名する。 事業費 600 万

・平成 14 年度 日本財団の NPO パワーアップ事業に採択され、グラウンドワーク組織を立ち上げるため雇用資金を受託しグラウンドワーク庄内の設立までの支援を行う。また、中心市街地活性化事業の一環として「つるおか街かど文学館」を設立。「外堀堰再生保存の会」などの設立に尽力する。緊急雇用対策費がつき専従職員が 4 名となる。 事業費 1200 万

・平成 15 年度 文化庁の委託事業で「文化ボランティア養成講座」を国指定重要文化財丙申堂で開催。中心市街地活性化事業で、「街中アート・パフォーマンス・アメニティ研究会」を発足。商店街などで各種実験事業を展開する。 事業費 850 万

・平成 16 年度 文部科学省生涯学習まちづくりモデル事業に「街中アート・パフォーマンス・アメニティ研究会」が採択され、公益大・芸工大の講師陣と5つの事業を展開、アートプロジェクト・だがしや楽校・時代劇映画際のイベントを展開する。事業費 500 万

・平成 17 年度 庄内市民活動センターを公益のふるさと創り鶴岡と改名して組織改編を行う。まちづくり事業に特化してスリム化を図ることとし、今後のまちづくりの先駆的モデルと成り得る事業の支援を展開する。事業費 400 万

・平成 18 年度 街中アート・パフォーマンス・アメニティ研究会がそれぞれ独立し事業展開を行う。文化庁委託事業「NPO による歴史的建造物活用モデル事業」に採択され「つるおか語りの世界」を開催。街中パフォーマンス研究会から発足したおいやさ祭りは鶴岡の盆の踊り再生の事業として評価されている。成果としてまちづくりのモデル的な実験活動が地域に定着する。事業費 500 万円

・平成 19 年度 山形学地域連携講座の開催、だがしや楽校が全労災地域貢献こども分野助成に採択される。山形県協働提案事業で出羽三山と最上川世界遺産登録シンポジウム開催 TAKiO プロジェクト発足、庄内はえや節CDを作成。文部科学省生涯学習 NPO 支援事業に採択される。事業費 600 万円

活動内容

1、だがしや楽校

子どもと大人が気張らず交流ができるそれが「だがしや楽校」です。祭りの屋台形式で「趣味・特技・遊び・学び・作品」を展開する集い「だがしや楽校」が社会力を育みます。学校とは違った、異世代の自由な学びの場となります。

- ・地元でだがしや楽校の開催
- ・県内、県外への出張出店



2、街中アメニティ研究会

鶴岡市のアメニティ空間を創出するために鶴岡らしい風景のある祭りの創出の研究をかさねました。それは江戸情緒と藤沢周平の作品をモチーフにしたアメニティ空間の創出を図るイベントを始めようということで、鶴岡の風物詩づくりの一役を担うことを目指します。

平成 16 年～ 海坂の桜小祭り、海坂の芭蕉祭り

平成 16 年 時代劇映画

平成 17 年～ 大黒様の御歳夜祭り



3、街中パフォーマンス研究会

中心市街地で開催されているイベントの活性化を考え、創出するためにどうすればよいか、東北芸術工科大学の森繁哉教授より示唆をいただき、まちの風情にマッチしたパフォーマンスを展開する研究をかさねました。地域の歴史とそのたたずまいに合わせながら、新しい風を吹き込むまちづくりを目指します。

平成 14・15 年 山王ナイトバザールにて東北芸術工科大学の森繁哉教授の劇団「南山座」ひきいる伝統芸能集団がパフォーマンス展開。秋田県無形文化財の秋田万歳など伝統芸能の披露。

平成 16 年 鶴岡の踊り再生を考える「歴史に見る鶴ヶ丘盆の踊りの再生を考えるフォーラム」を開催

平成 17 年～ 夏に「庄内八エヤ流し踊り・オヤサー祭り」、冬に「鶴岡踊り祭りフェスティバル」を開催



4、災害ボランティアネットワーク

災害が発生した場合、より迅速かつスムーズに被災者支援を行うため、鶴岡市及び地区災害ボランティアセンターにおいて「災害ボランティア」として活動を行う人材を養成し、災害時に備えることを目的に活動しています。

講座をはじめ、ボランティアセンター設置訓練や災害救援に対する募金活動等を行っています。



5、コミュニティ・ガーデン

とぼり広場及び沿線の花壇を地域団体および近隣住民の手で植栽活動を行う事業。市民自らが、グラウンドワーク手法を用いて、活動を継続的に行う仕組みを作り、実践活動を行います。

平成 14 年～ 夢広場エンジニアリング
 平成 15 年～ とぼり広場と県道の花壇の植栽活動



6、山王まちづくり

山王商店街は江戸時代から栄えた町であったが、空洞化により衰退の一途をたどっています。その衰退を食い止めるために若手の店主が奮起してナイトバザール・山王まちづくり協定締結などを行って成果を挙げています。

平成 6 年～ 山王ナイトバザール 毎月第 3 土曜日開催



7、文化財活用

「鶴岡の庶民文化の再発見ー豊かな感性、豊かな社会 - 」をテーマにとりまとめ、感性を伝える場としての歴史的建造物の魅力を探り、深めていくと共に、国指定重要文化財丙申堂で行われたイベントを鶴岡のまちづくりへ効果的に結びつけていくことを試んでいます。



8、世界遺産登録推進

出羽三山と最上川は山形県の象徴のような資源。その貴重な遺産を世界遺産登録する実行委員会を組織して県民の意識の啓蒙を図る登録に向けたシンポジウムを開催しました。



感想

理事や各プロジェクトに関わっているスタッフの方々の鶴岡に対する思い、そしてその思いを実現するパワーにいつも関心させられ、学ばさせてもらっています。組織し、仲間を集い、協力し合う。言うのは簡単で、実際に行動するのは難しいが、このNPOは様々な活動を根気よく、地道に続けている。生きていく上で重要なことをこのNPOから学ばさせてもらっている。